

# 東京国際大学機関報告(2000)

川村 よし子

## [ 機関概要 ]

名称： 東京国際大学  
住所： 〒350-1197 川越市的場北 1-13-1  
tel： ++81-492-32-1111  
fax： ++81-492-32-1119  
組織： 商学部・経済学部・国際関係学部・人間社会学部  
商学研究科・経済学研究科・国勢関係学研究科・社会学研究科

## [ 留学生 ]

留学生の在籍数： 学部 329名 大学院 46名 総計 375名

留学生の出身国（地域）別在籍数：

中国	204	大韓民国	72	台湾	67
タイ	3	マレーシア	8	香港	11
インドネシア	1	ミャンマー	3	バングラディシュ	1
スリランカ	2	朝鮮	1	ポーランド	1
チュニジア	1				

## [ 日本語教育 ]

◎日本語担当教員： 学部担当  
常勤 6名 非常勤 10名  
日本語学習コーナー担当  
非常勤 5名

◎学部の日本語教育（商学部・経済学部）

必修科目

日本語読解作文 週2コマ（1コマ90分）  
読み書き能力の養成  
日本語セミナー 週2コマ  
4技能を総合的に用いた発表能力の養成

選択必修科目（下記の科目あるいは他の語学科目から12単位履修）

日本事情  
日本語聴解  
日本語口頭表現  
日本語上級読解  
日本語論文の書き方

### ◎本学の授業の特徴

1. 1年次に日本語の力をつけるため、週4コマが必修科目となっている。そのほかに選択必修があるのだが、学生たちの多くが日本語科目を1年次にすべてとってしまおうとする傾向が強い。そのため、授業の半分は日本語科目という学生も多い。
2. 本学は1年次から全員ゼミに所属することになっている。そこで、1年次から日本人学生と対等にゼミで発表等を行う必要がある。日本語セミナーはそのための訓練の場を提供している。前期はクラスで所定の本を決め、それについて発表するという形を取り、後期は自分でテーマを決め、調査し、結果をまとめて発表し、さらにレポートにまとめるという授業を行っている。
3. 聴解、口頭表現等はできるだけ少人数で行うのが理想だが、現状では20から35名くらいの規模になってしまっている。個別指導をいかに効率よく行うかが課題。
4. 上級読解、論文の書き方は、主に2年時以上の学生を想定したクラスである。ところが1年生が多く参加してしまい、肝心の上級生向けの授業にできないこともある。上級読解の目的は文意を正確に素早く読みとる速読力の養成である。また論文の書き方は、卒論を目標に、文献検索、調査方法、論文作成等の技術を教えている。
5. 現在の課題：  
上級生は日本語の授業をとらなくなるが、実際には3、4年次でもより上級の日本語を学ぶ機会を提供する必要がある。現在、一定の科目を履修した学生に認定証を与える形のビジネス日本語コースの設立を計画中である。

### ◎日本語学習コーナー

1999年度から新たに日本語学習コーナー（日本語補習システム）がスタートした。これは正規の日本語科目以外に自由に学生が日本語を学ぶことができる自律学習支援システムである。語学ラボラトリーの一角に日本語学習コーナーを設け月曜から金曜まで週5日、9時から18時まで利用できるようにした。ここでは、カセット、ビデオ、CD-ROM、教科書、問題集などの教材の貸し出しを行っている。また、通常のAV機器のほかにコンピュータも15台設置されており、インターネットを用いた学習も可能である。専属の日本語インストラクターが日本語学習の相談を受けるとともに、コンピュータを用いた語学学習を支援し、教材提供や教材開発も行っている。

学習コーナー独自のホームページも開発している。インターネット上で公開しているので、学外からもアクセス可能である。 <http://www.tiu.ac.jp/~kaneniwa>

### ◎読解学習支援システム「リーディング・チュウ太」（<http://language.tiu.ac.jp>）

今回の連絡会議で発表した「読解教材バンク」を含む読解学習支援システム「リーディング・チュウ太」は一般に公開しているので、学外からも利用可能である。